

# 中学校社会科における 自分の考えを深めることができる生徒の育成

— 意思決定を伴う「単元の課題」の設定と  
自分の考えを再検討する活動を取り入れることを通して —

長期研修員 久保野 雅之

## 《研究の概要》

本研究は、「主体的・対話的で深い学び」の実現を視野に、中学校社会科において、単元を通して自分の考えを形成していく活動を通して、自分の考えを深めることができる生徒の育成を目指したものである。

具体的には、以下の三つの手立てを通して、本主題に迫ることとする。

- 1 単元の「つかむ」過程において、意思決定を伴う単元の課題を設定する。
- 2 単元の「追究する」過程の、各単位時間の振り返りの場面において、学習内容を踏まえて、単元の課題に対する自分の考えを再検討する活動を取り入れる。
- 3 単元の「まとめる」過程において、他者の考えを踏まえて、単元の課題に対する自分の考えを再検討する活動を取り入れる。

### キーワード

【社会—中 考えを深める 意思決定を伴う「単元の課題」 考えの再検討】

群馬県総合教育センター

分類記号：G02-03 令和4年度 279集

## I 主題設定の理由

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中央教育審議会 平成 28 年 以下、答申）では、子供たちの教育課題の一つとして、「判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べること」が不十分であることを挙げている。第 3 期群馬県教育振興基本計画（平成 31 年）でも、「必要な情報を取り出して自分の考えを述べたり、考えた方法や理由を説明したりすること」を本県の教育課題として挙げている。さらに、研究協力校の生徒も、素直に学習に取り組める反面、自分の考えを述べたり、考えを交流したりすることに対しては消極的である。そのため、学習内容に対して自分の考えが深まっていかない傾向にある。

また答申では、「深い学び」を実現するためには、「習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた『見方・考え方』を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりする」という視点に立って授業改善を行う必要があるとしている。そして、中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）でも、「単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る」ことが求められている。

そこで本研究では、「主体的・対話的で深い学び」を目指して授業改善を行い、生徒自身が自分の考えを深めることができるようになるためには、どのような手立てが有効なのかということの研究の柱として取り組むことにした。

自分の考えを深めていくためには、単元を通して、粘り強く取り組み、各単位時間の学習内容を踏まえて、考えを形成していくことが大切である。しかし、これまでの授業は、単元の課題と各単位時間の学習内容のつながりが曖昧なために、それらを相互に関連付けて理解させることができず、課題に対する自分の考えがあまり深まらなかった。そこで、手立てとして、単元の「つかむ」過程で、意思決定を伴う「単元の課題」を設定し、各単位時間で単元の課題に対する自分の考えを再検討する活動を取り入れることにした。意思決定を伴う「単元の課題」とは、現時点の経験や既習事項を基に、自ら考え、意思決定ができる課題である。

具体的には、まず単元「つかむ」過程において、意思決定を伴う「単元の課題」を設定することで、現時点の経験や既習事項を基に自分の考えをもたせる。次に、単元の「追究する」過程で、単位時間の学習内容を踏まえて自分の考えを再検討する活動を行う。この活動を繰り返すことで、自分の考えに多面的・多角的な視点に加わり、考えが深まっていくと考える。最後に、単元の「まとめる」過程で、他者の考えを踏まえて自分の考えを再検討する活動を取り入れる。再検討を繰り返して深めてきた互いの考えを交流した上で、改めて自分の考えを再検討すれば、新たな気付きや視点が生まれ、自分の考えを更に深めることができる。また、これらの手立てを講じることで、生徒は単元の課題を意識して学習をつなげていくことができるため、考えが深まっていくことを実感し、さらには粘り強く学習に取り組むことができるようになると思われる。

以上のことから、本研究では、中学校の社会科において自分の考えを深めるための授業改善を視野に、単元の「つかむ」過程で意思決定を伴う「単元の課題」を設定し、それを基に自分の考えを再検討する活動を繰り返し取り入れることで、自分の考えを深めると考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

中学校社会科において、自分の考えを深めることができる生徒を育成するために、意思決定を伴う「単元の課題」を設定し、単元の「追究する」過程で、学習内容を踏まえて自分の考えを再検討する活動を繰り返し取り入れたり、単元の「まとめる」過程で、他者の考えを踏まえて自分の考えを再検討する活動を取り入れたりすることの有効性を明らかにする。

### Ⅲ 研究仮説（研究の見通し）

#### 1 意思決定を伴う「単元の課題」の設定について

単元の「つかむ」過程において、意思決定を伴う「単元の課題」を設定すれば、現時点の経験や既習事項から自分の考えをもつことができるであろう。

#### 2 学習内容を踏まえた自分の考えを再検討する活動について

単元の「追究する」過程の各単位時間の振り返りの場面において、学習内容を踏まえて、自分の考えを再検討する活動を繰り返し行えば、自分の考えに多面的・多角的な視点が加わり、自分の考えを深めることができるであろう。

#### 3 他者の考えを踏まえた自分の考えを再検討する活動について

単元の「まとめる」過程において、他者の考えと自分の考えを交流した上で、自分の考えを再検討する活動を行えば、新たな気付きや視点が生まれ、より分かりやすく説明できるようになり、自分の考えを更に深めることができるであろう。

### Ⅳ 研究の内容

#### 1 基本的な考え方

##### (1) 文言の定義

##### ① 「自分の考えを深めることができた」とは

本研究では、新しい学習内容や他者の考えと、自分の考えを相互に関連付けることを通して、根拠となる知識を精査しながら、多面的・多角的な視点を踏まえて、自分の言葉で言い換えたり、具体例を挙げたりして自分の考えが再形成されたときに、自分の考えを深めることができたと捉える。

##### ② 「意思決定を伴う『単元の課題』とは

本研究では、「なぜ～なのか?」「どのように～か?」「どのような～か?」という単元の課題ではなく、「賛成か反対か」「どれが一番よいか」など、自分としてはどう考えるかという視点から、現時点の経験や既習事項を基に、自分の判断を行い、その理由をまとめることができる単元の課題のことを、意思決定を伴う「単元の課題」とした。

##### ③ 「自分の考え」とは

本研究では、意思決定を伴う「単元の課題」に対する自分の判断と、そのように判断した理由の総称を「自分の考え」とした。

##### ④ 「自分の考えを再検討する活動」とは

単元の「追究する」過程では、新しい学習内容とこれまでの自分の考えを相互に関連付けることを通して、根拠となる知識を精査しながら、もう一度、自分の意思や意思決定の理由を見直す活動を「自分の考えを再検討する活動」とした。

単元の「まとめる」過程では、他者の考えと自分の考えを相互に関連付けることを通して、根拠となる知識を精査しながら、もう一度、自分の意思や意思決定の理由を見直す活動を「自分の考えを再検討する活動」とした。

##### (2) 手立ての説明

##### ① 意思決定を伴う「単元の課題」の設定

意思決定を伴う「単元の課題」は、単元の「つかむ」過程で設定する。生徒自ら単元の課題をつかむことができるように、小学校の既習事項を整理しながら、意思決定の視点となる部分を焦点化していく。そこで、生徒のつぶやきを拾いながら「自分だったらどうするか」と問い掛け、単元の課題を設定する。

小学校の既習事項を整理しながら、意思決定を伴う「単元の課題」を設定することから、意思決定を行うための判断材料はある程度そろっている。そのため、単元の課題をつかんだ段階から、生徒は小学校の既習事項を生かして自分の考えをもつことができると考える。また、小学校の既習事項だけでは焦点化が難しい場合は、資料集等で単元を大観し、そこから意思決定の視点となる部分を焦点化していく。

## ② 学習内容を踏まえた自分の考えを再検討する活動

学習内容を踏まえた自分の考えを再検討する活動は、各単位時間の振り返りの場面で行う。ここでは、学習内容とこれまでの自分の考えを相互に関連付けることを通して、根拠となる知識を精査しながら、多面的・多角的な視点を踏まえて、自分の言葉で言い換えたり、具体例を挙げたりしながら、改めて自分の考えをまとめる。意思決定を行う際の判断材料が増えていく単元構成にすることで、学習するごとに判断の理由に多面的・多角的な視点が加わっていき、自分の考えが深まっていくと考える。加えて、学習内容を踏まえた再検討を各単位時間で繰り返すことから、単元の課題を常に意識させることができる。そのため、単元の課題と各単位時間のつながりが生まれ、粘り強く学習に取り組めるようになると考える。

## ③ 他者の考えを踏まえた自分の考えを再検討する活動

他者の考えを踏まえた自分の考えを再検討する活動は、単元の「まとめる」過程で行う。四人班になり、一人ずつ自分の考えを発表し、それに対して質疑応答の時間を設けて、考えを交流する活動を取り入れる。同じ立場の考えや反対の立場からの考えと、自分の考えを比較・関連付けることで、新たな気付きや視点が生まれ、更に自分の考えを深めることができると考える。

## 2 研究構想図



## V 研究の計画と方法

### 1 授業実践の概要

(1) 授業実践Ⅰ	
対 象	研究協力校 中学校第2学年 93名 (3学級)
実 践 期 間	令和4年7月4日～7月15日 6時間
単 元 名	「江戸幕府の成立と対外政策」
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解する。</li> <li>統一政権の諸政策の目的に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、江戸幕府の成立と対外関係について、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。</li> <li>江戸幕府の成立と対外関係について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究し、解決しようとする態度を身に付ける。</li> </ul>
(2) 授業実践Ⅱ (指導案提供)	
対 象	研究協力校 中学校第2学年 93名 (3学級)
実 践 期 間	令和4年8月29日～9月21日 9時間
単 元 名	「産業の発達と幕府政治の動き」
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを基に、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解する。</li> <li>社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解する。</li> <li>産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。</li> <li>産業の発達と町人文化、幕府政治の展開について、そこで見られる課題を主体的に追究し、解決しようとする態度を身に付ける。</li> </ul>
(3) 授業実践Ⅲ	
対 象	研究協力校 中学校第2学年 93名 (3学級)
実 践 期 間	令和4年10月7日～10月21日 6時間
単 元 名	「欧米の進出と日本の開国」
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>開国とその影響などを基に、幕府が対外政策を転換したことで、それが国内の大きな変化につながったことを理解する。</li> <li>欧米諸国のアジア進出の理由や背景などに着目し、開国の影響とその後の幕府政治の動向などを関連付けるなどして、社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。</li> <li>開国とその影響について、そこで見られる課題を主体的に追究し、解決しようとする態度を身に付ける。</li> </ul>

### 2 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し1	単元の「つかむ」過程において、意思決定を伴う「単元の課題」を設定することは、現時点の経験や既習事項から自分の考えをもつことに有効であったか。	○アンケート分析 ○学習活動の観察 ○課題解決シートの記述
見通し2	単元の「追究する」過程における各単位時間の振り返りの場面において、学習内容を踏まえて、自分の考えを再検討する活動を繰り返し行うことは、生徒の考えを深めることに有効であったか。	
見通し3	単元の「まとめる」過程において、他者の考えと自分の考えを交流した上で、自分の考えを再検討する活動を行うことは、生徒の考えを更に深めることに有効であったか。	

### 3 評価規準

(1) 授業実践Ⅰ (「江戸幕府の成立と対外政策」)		
評価規準	知識・技能	江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。
	思考・判断・表現	統一政権の諸政策の目的に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、江戸幕府の成立と対外関係について、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。

	主体的に学習に取り組む態度	・江戸幕府の成立と対外関係について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
<b>(2) 授業実践Ⅱ（「産業の発達と幕府政治の動き」）</b>		
評価 規 準	知識・技能	・産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを基に、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解している。 ・社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。
	思考・判断・表現	・産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	・産業の発達と町人文化、幕府政治の展開について、そこで見られる課題を主体的に追究し、解決しようとしている。
<b>(3) 授業実践Ⅲ（「欧米の進出と日本の開国」）</b>		
評価 規 準	知識・技能	・開国とその影響などを基に、幕府が対外政策を転換したことと、それが国内の大きな変化につながったことを理解している。
	思考・判断・表現	・欧米諸国のアジア進出の理由や背景などに着目して、開国の影響とその後の幕府政治の動向などを関連付けるなどして、社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	・開国とその影響について、そこで見られる課題を主体的に追究し、解決しようとしている。

## 5 指導計画（授業実践Ⅲを記載。各単位時間における詳細は別添資料参照）

過程	時間		重点	
つか か む	1	<p>●ねらい ○学習活動 [☆]：ICT活用</p> <p>●片貿易と三角貿易の仕組みを考察する活動を通して、欧米諸国がアジアへ進出した過程について理解できるようにする。 ○片貿易と三角貿易について考察する。 [☆] ○南京条約について考察する。 [☆] ○インドの植民地化について理解する。</p> <p>[本時のめあて] 欧米諸国の台頭は、アジアにどのような影響を与えたのだろうか。</p>	知	<p>◇評価項目&lt;方法（観点）&gt; [記]：記録に残す評価</p> <p>◇イギリス、インド、清の貿易方法の変化に着目して、欧米諸国がアジアへ進出した経緯を理解している。 &lt;プリント、発言（知）&gt;</p>
	2	<p>●既習事項を基に、単元の課題を立てる活動を通して、開国とその影響について追究する意欲をもてるようにする。 ○開国の影響を考察する。 [☆] ○単元の課題をつかむ。 ○自分の考えをもつ。 [☆]</p> <p>[本時のめあて] 既習事項や開国に関する学習を通して、単元の課題を立てよう。</p>	態	<p>◇単元のめあてに対する自分の考えをもち、これからの追究活動に対する意欲をもっている。 &lt;課題解決シート、発言（態）&gt; [記]</p>
<p>[単元の課題] あなたは、日本のために、開国すべきだだと思いますか、鎖国を続けるべきだだと思いますか。</p>				
追 究 す る	3	<p>●不平等条約締結から桜田門外の変までを考察する活動を通して、尊王攘夷運動がさかんになり、幕府の権威が失墜していったことを理解できるようにする。 ○日米修好通商条約について調べ、事柄について考察する。 [☆] ○尊王攘夷派と庶民の心情を考察する。 ○今日のまとめを行い、自分の考えを入力する。 [☆]</p>	知	<p>◇不平等条約締結後の政治の流れに着目して、開国による政治的な影響について理解している。 &lt;プリント、発言（知）&gt; ◇尊王攘夷派の台頭に着目して、単元の課題について考察し、自分の考えを表現している。 &lt;課題解決シート、発言（思）&gt;</p>

		[本時のめあて] 開国によって、日本の政治はどのような影響を受けたのだろうか。		
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●貿易品目や金銀の交換比率に関する資料の読み取りを通して、開国後の経済の変化について理解できるようにする。</li> <li>○物価上昇について考察する。[☆]</li> <li>○金銀の交換比率について理解する。[☆]</li> <li>○今日のまとめを行い、自分の考えを入力する。[☆]</li> </ul> <p>[本時のめあて] 開国によって、日本の経済はどのような影響を受けたのだろうか。</p>	知	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇貿易による物資の流出や金銀の交換比率に着目して、貿易開始による物価上昇について理解している。</li> <li>〈プリント、発言(知)〉</li> <li>◇開国による物価上昇に着目して、単元の課題について考察し、自分の考えを表現している。</li> <li>〈課題解決シート、発言(思)〉</li> </ul>
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>●薩摩藩や長州藩の動きや幕府の対応を整理する活動を通して、江戸幕府滅亡までの経緯を理解できるようにする。</li> <li>○長州藩と薩摩藩の動きを理解する。[☆]</li> <li>○民衆、幕府、新政府の動きについて理解する。[☆]</li> <li>○今日のまとめを行い、自分の考えを入力する。[☆]</li> </ul> <p>[本時のめあて] どのような経緯で、江戸幕府は滅んだのだろうか。</p>	知	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇雄藩や幕府の動きに着目して、江戸幕府滅亡までの経緯を理解している。</li> <li>〈プリント、発言(知)〉</li> <li>◇江戸幕府滅亡の経緯に着目して、単元の課題について考察し、自分の考えを表現している。</li> <li>〈課題解決シート、発言(思)〉</li> </ul>
ま と め る	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現時点における自分の考えと他者の考えとの交流を通して、新たな気付きや、異なる立場の意見を踏まえて、単元の課題に対する自分の考えを表現し、単元のまとめができるようにする。</li> <li>○自分の考えを班で交流する。[☆]</li> <li>○交流を踏まえて自分の考えを再検討する。[☆]</li> <li>○「最後の考え」などをまとめる。[☆]</li> </ul> <p>[本時のめあて] 友達との意見交流を踏まえて、単元の課題に対する自分の考えを深め、単元のまとめをしよう。</p>	思  態	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇江戸幕府の滅亡について、欧米のアジア進出に着目して、多面的・多角的に考察し、自分の考えを表現している。</li> <li>〈課題解決シート、発言(思)〉</li> <li>[記]</li> <li>◇開国とその影響について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</li> <li>〈課題解決シート、発言(態)〉</li> <li>[記]</li> </ul>

## VI 研究の結果と考察

### 1 検証の観点1

単元の「つかむ」過程において、意思決定を伴う「単元の課題」を設定することは、現時点の経験や既習事項から自分の考えをもつことに有効であったか。

#### (1) 実践の概要

単元の「つかむ」過程で、まず小学校の既習事項としてペリーを想起させ、当時の様子について自由に発言させた後、日米和親条約について調べ学習を行った。そして「開国」というキーワードが出てきたところで、デジタルホワイトボードを活用し、小学校の既習事項を基に開国のメリットとデメリットを班で自由に考えを出させた。その後、全体でメリットとデメリットを共有しながら、開国にもデメリットがあることに気付かせ、意思決定の視点となる部分（開国すべきか、鎖国を続けるべきか）を焦点化し、「あなたは、日本のために、開国すべきだだと思いますか、鎖国を続けるべきだだと思いますか」という意思決定を伴う「単元の課題」を設定した。そして、班で作成したデジタルホワイトボードや小学校の既習事項を基に自分の考えをもたせた。

## (2) 結果

単元の「つかむ」過程では、単元の課題に対して、全員が「開国する」もしくは「鎖国を続ける」のどちらかの判断をすることができた。そして、96%の生徒が判断の理由まで記述することができた。記述内容を見ると、生徒Bのように一言程度で根拠が不明確な記述や生徒Dのように小学校の既習事項を踏まえて理由付けできている記述など様々であった（表1）。社会科が苦手な生徒も、開国のメリットやデメリットをまとめたデジタルホワイトボードを参考にしながら、自分の考えをもつことができていた。

単元の「追究する」過程では、ほとんどの生徒が毎時間の振り返りの場面で、自分の考えをもつことができおり、時間内で考えをもつことができなかつた生徒が、タブレット端末を持ち帰り、家庭でまとめてくる様子も見受けられた。

表1 単元の「つかむ」過程でまとめた最初の考え（一部の生徒）

生徒	判断	判断の理由
A	開国する	世界の文化が入ってきて、より国が豊かになると思ったから。
B	開国する	日本が発達するから。
C	鎖国を続ける	開国したことで、アメリカの都合がよいようになったから。
D	鎖国を続ける	鎖国を続けていけば不平等な条約が結ばれることはなかったから。

## (3) 考察

ほとんどの生徒が自分の考えをもつことができたのは、単元の「つかむ」過程で、小学校の既習事項を生かして自分ごととして考えさせることができる単元の課題を設定したからだと考える。

本研究では、意思決定を伴う「単元の課題」を小学校の既習事項を基に設定しているため、現時点の経験や既習事項から意思決定が行いやすいと考える。また、「開国する」「鎖国を続ける」という選択肢を設けたことで、考える視点が明確になり、さらに「自分ならどうするか」を考えさせるため、意思決定がより一層行いやすいと言える。加えて、小学校の既習事項が曖昧な生徒のために、班で小学校の既習事項を整理する活動を行った。そのため、誰でも小学校の既習事項を生かして判断を行うことができ、その理由をまとめることができたと考える。また、主体的に学習に取り組む様子を見ることができたのは、単元の「つかむ」過程で、今後深めていく考えの基盤をもち、その考えを学習を通してより深めていきたいと考えたからだと推測される。

このことから、意思決定を伴う「単元の課題」を設定することは、自分の考えをもつことに有効であったと考える。

## 2 検証の観点2

単元の「追究する」過程における各単位時間の振り返りの場面において、学習内容を踏まえて、自分の考えを再検討する活動を繰り返し行うことは、生徒の考えを深めることに有効であったか。

### (1) 実践の概要

振り返りの場面で、まずは板書に残されているキーワードを基に、生徒とのやり取りを通して本時のまとめを行った。次に学習内容を踏まえて、単元の課題に対する判断を行うよう声掛けを行い、そのように判断した理由を記述させた。そして最後に本時の学習について考えたこと、新たに疑問に思ったことなどをまとめさせた。そのような単位時間の学習を、単元の「追究する」過程で3時間繰り返した。

### (2) 結果

生徒Eは単元の課題をつかんだ後、「開国する」という立場だった。しかし、次頁表2に示したように、単元の「追究する」過程の1時間目(①)では、様々な国と不平等条約を結んだ点(幕府の視点、政治面)、国内で反発が起きた点(庶民の視点、政治面)を根拠として、鎖国を続ける理由をまとめている。2時間目(②)では、金銀の交換比率の違いによる金の流出(幕府の視点、経済面)や国内の手工業者が打撃を受けた点(庶民の視点、経済面)を根拠として、鎖国を続ける理由をまとめている。3



時間目 (3) では、イギリスと協力関係を結んで新たな武器を手に入れた点 (雄藩の視点、外交面、産業面) を根拠として、鎖国を続ける理由をまとめている。このように単元の「追究する」過程が進むにつれて、判断の理由に多面的・多角的な視点が増えていき、考えが深まっていることが分かる。

表2 単元の「追究する」過程における生徒Eの考え

判断	判断の理由
①鎖国を続ける	様々な国と不平等条約ばかり結んだり、国内で反発が起こったりと、治安がどんどん悪くなっているから。
②鎖国を続ける	外国との金銀の交換比率の違いで外国に金が流出してしまったり、安い外国製品が入ってきて国産が売れず、国内の手工業者が打撃を受けてしまったりするなど、日本へのメリットが少ないため。
③鎖国を続ける	薩英戦争後にイギリスと協力関係を結び、幕府を滅ぼしたり、新たな武器を手に入れることができたりして、結果的に日本の発展に繋がったのではないかと思ったから。

また、実践後に行った学習内容を踏まえて自分の考えを再検討する活動に関するアンケート調査では、88.8%が自分の考えを授業ごとに再検討していくことで自分の考えが「深まった (やや深まった)」と回答している (図1)。単元の振り返りにおける記述では、「再検討することによって、どうしてそうなるのかを考えられた」という振り返りがあることから、生徒自身も、考えの深まりがあったということを実感していることが分かる (図2)。また、「毎時間まとめていくうちに、いろいろ覚えることができた」という記述があることから、知識の定着を図ることもできたと言える (図2)。

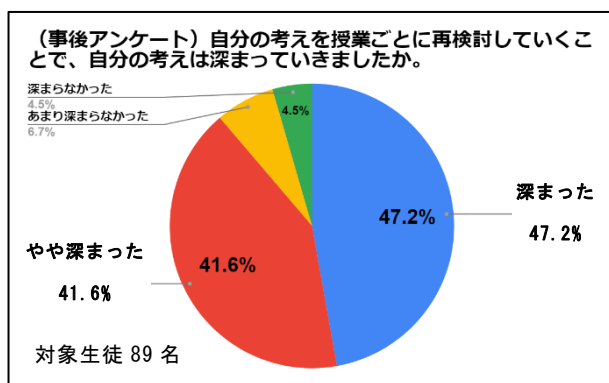


図1 事後アンケート  
(学習内容を踏まえた再検討)

・毎時間自分の考えを再検討することによって、どうしてそうなるのかを考えられた。  
 ・授業ごとに考えを再検討してみると、1時間前の考えとは全く違う考えになっていてすごく考えが深まった。  
 ・自分の考えを毎時間まとめていくうちにいろいろ覚えることができたのでよかった。

図2 単元の振り返りにおける記述

さらに、実践の前後で、単元の課題を意識して、毎時間の学習に取り組むことができているかについてアンケート調査を行った。結果を見ると、「できている (できた)」「ややできている (ややできた)」割合が77.7%から89.9%に上昇した (図3及び図4)。「できている (できた)」割合に限ると22.4%から41.6%と大幅に上昇した。また、単元の振り返りの記述では、「最初は開国した方が日本からしたらよい

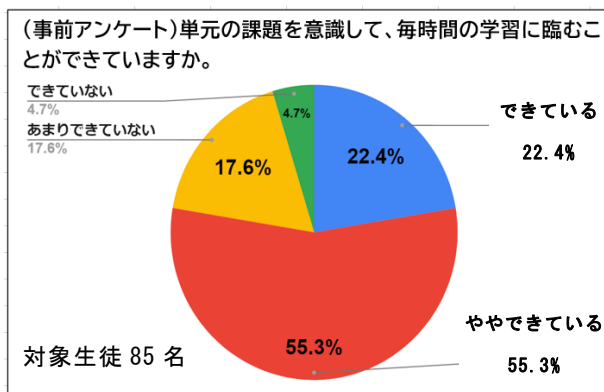


図3 事前アンケート  
(単元の課題を意識して学習に臨む)

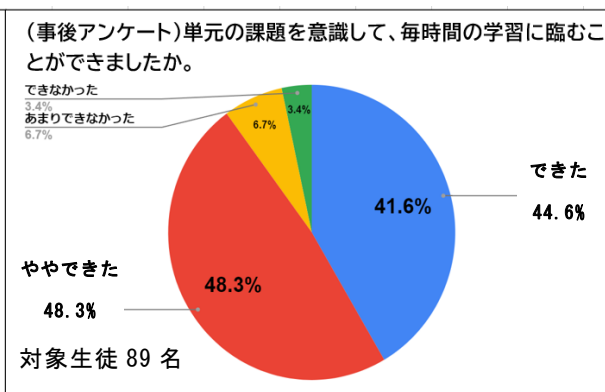


図4 事後アンケート  
(単元の課題を意識して学習に臨む)

ことだと思ったが、学習をする中で鎖国を続けた方がよいと思った」「ずっと開国派だった」という振り返りがあることから、常に単元の課題と各単位時間の学習内容を関連付けて、学習につながりをもたせながら、取り組んでいたことが分かる（図5）。

- ・最初は開国をした方が日本からしたらよいことだと思ったが、学習をする中で鎖国を続けた方がよいと思った。
- ・最初の考えからずっと開国派だったが、授業を受けていくたびに自分の考えがどんどん深くなっていくのが分かって、判断の理由を書くのが毎時間とても楽しかった。

図5 単元の振り返りにおける記述

### (3) 考察

生徒の記述に考えの深まりが見られたり、生徒が考えの深まりを実感したりできたのは、常に単元の課題に立ち回りながら再検討を繰り返すことを通して、多面的・多角的な視点から考えをまとめることができたからだと考える。

意思決定を伴う「単元の課題」は、常に単元の課題に立ち回りながら、新しい学習内容とこれまでの考えを相互に関連付けて、新たな判断の理由を付け足したり、判断を変更したりすることができる。図5の振り返りにある「全く違う考えになってすごく考えが深まった」とは、新しい学習内容を踏まえて新たな理由が加わったり、新しい学習内容を根拠として判断が変更されたりした場合と考えられる。本研究では、単元の「追究する」過程を、はじめに幕府や庶民の視点からの政治面の学習、次に幕府や庶民の視点からの経済面の学習、最後に雄藩の視点からの産業面・外交面の学習を行うという単元構成にした。このような単元構成にして再検討を繰り返すことで、自分の考えに多面的・多角的な視点加わり、考えが深まっていったと考える。さらに、単元の課題に立ち返って自分の考えを再検討するためには、これまでの学習内容や自分の考えを振り返る必要がある。そのため、結果として知識の定着にもつながったと考える。

また、単元の課題を意識して学習に取り組むことができたのは、各単位時間で自分の考えを再検討する活動を繰り返すことができたからであると考え。 「なぜ～なのか？」という単元の課題の場合、単元の「追究する」過程を全て学習しないと、自分の考えをまとめることができない場合が多い。しかし、本研究の意思決定を伴う「単元の課題」は、単元の「追究する」過程のどの段階においても、各単位時間の学習内容を生かしながら自分の考えを再検討することができる。そのため、常に単元の課題を意識しながら、粘り強く学習に取り組めるようになったと考える。

このことから、意思決定を伴う「単元の課題」を設定し、単元の「追究する」過程において、学習内容を踏まえて自分の考えを再検討する活動を繰り返すことは、生徒の考えを深め、さらには単元の課題を意識しながら、粘り強く学習に取り組む上で有効であったと考える。

## 3 検証の観点3

### (1) 実践の概要

単元の「まとめる」過程において、他者の考えと自分の考えを交流した上で、自分の考えを再検討する活動を行うことは、生徒の考えを更に深めることに有効であったか。

他者との交流を行う前に、生徒の判断を確認しておき、偏りがある場合には班員を変更するなどの対応をとった。授業では、まず四人班となり、一人ずつ自分の考えを発表させた。その後、質疑応答の時間を取り、考えの交流を行った。結果ではなく、判断の過程を重視することから、傾聴を心掛けるようクラスに声を掛けた。班員の調整を行っても、もう一方の判断の考えに触れることができない班がある場合には、クラス全体で少ない判断の考えを共有する時間を確保した。そして、最後の考えを個人でまとめさせた。

## (2) 結果

自分と異なる立場の考えをもつ生徒に対して、自分の考えと照らし合わせながら、質問をしている様子が見られた。また、同じ立場でも理由が異なる場合には、補足説明を求めたり、共感したりしている様子が見られた。生徒の考えの変容を見ると（図6）、生徒Fは「発展や強くなるためには外国の力が必要」と考える生徒Gの考えに触れたことで、これまでの考えに加えて、「今まで知らなかった世界の強さを知ることでき、日本は発展していった」という新たな気づきを踏まえて考えをまとめることができた。

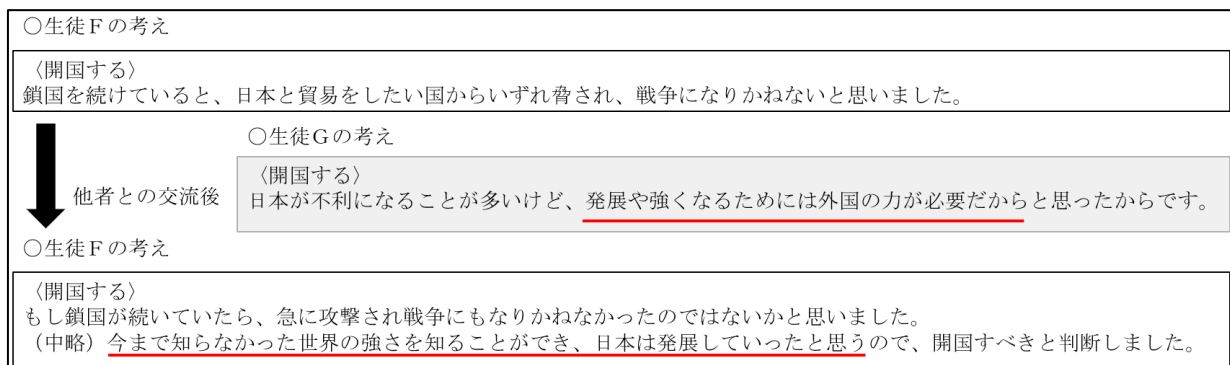


図6 他者の考えを踏まえた再検討による考えの深まり

また、実践後に他者の考えを踏まえて自分の考えを検討する活動に関するアンケート調査を行ったところ、87.7%が班で自分の考えを交流することで自分の考えが「深まった（やや深まった）」と回答した（図7）。単元の振り返りにおける記述では、「新しい意見や一人では考えられなかった意見が出てきて、考えが深まった」という振り返りがあることから、生徒自身も、考えの深まりがあったということを実感していることが分かる（図8）。

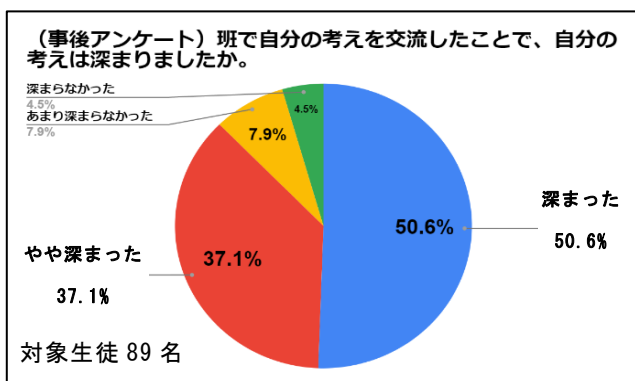


図7 事後アンケート  
(他者の考えを踏まえた再検討)

- ・他の人との意見交流で発表しあって、新しい意見や一人では考えられなかった意見が出てきて、考えが深まったと思いました。
- ・グループで同じ判断をしている人が多かったけど、その判断の理由がそれぞれ違い、考えを深めていくことができたので良かったです。

図8 単元の振り返りにおける記述

## (3) 考察

生徒の記述に考えの深まりが見られたり、生徒が考えの深まりを実感したりできたのは、他者の考えに触れることを通して、新たな気づきや視点が生まれたからだと考える。

図8の振り返りにある「新しい意見」や「一人では考えられなかった意見」は、新たな気づきや視点と考えられる。再検討を繰り返すことで考えが深まり、自信をもつことができた考えであっても、傾聴を心掛けさせることで、他者の考えから新たな気づきや視点を得ることができたと言える。このように交流を通して、自信をもった考えに新たな気づきや視点を加えることができたため、自分の考えを更に深めることができたという実感をもつことができたと考える。

このことから、単元の「まとめる」過程において、他者の考えと自分の考えを交流した上で、自分の考えを再検討する活動を行うことは、生徒の考えを更に深めることに有効であったと考える。

#### 4 生徒の考えの分析と考察

手立てを講じた結果、どのように考えが深まったのかを、「最初の考え」と「最後の考え」を分析し、考察する。表3は生徒3名（生徒Hは社会科が得意な生徒、生徒Iは中間層の生徒、生徒Jは社会科が苦手な生徒）の単元の課題をつかんだ後の「最初の考え」と、他者との交流後にまとめた「最後の考え」である。なお、分析は図9に示した分析の視点にしたがって行った。

生徒Hは「最初の考え」を、「開国する」としていた。理由として、反対の立場からの視点として、鎖国をしていたらアメリカと戦争になっていたかもしれないという点（外交面、幕府の視点）と発展していなかったかもしれないという点（産業面）を挙げていた。しかし、なぜ鎖国をするとアメリカと戦争になってしまうかという部分の記述はなく、根拠は不明確だった。「最後の考え」では、「開国する」という判断には変更はないが、学習内容を踏まえて、世界基準（金銀の交換比率の違い）にこの時点で気付くことができたという点（経済面、幕府の視点）を挙げ、自分の言葉で「気付いていなかったら、もっと経済が大変なことになっていたのではないか」と具体的に示している。また、「薩摩藩が江戸幕府に対抗できる力をつけることができた」という点（産業面、雄藩の視点）が根拠に加わり、「最初の考え」では不明確であった外国との争いに関する部分については、幕府の政治が行き詰まっていたことを根拠として「圧力に負けると思ったので、ここで開国した方がいい」（幕府の視点）と、自分の言葉で言い換えて表現している。以上のように、最初は根拠が不明確な外交面、産業面からの理由付けだったが、自分の考えを再検討する活動を繰り返したことで、「最後の考え」では、新しく経済面の記述が根拠に加わり、雄藩の視点からの記述も加わった。さらに学習内

○多面的な捉え方 産業面、経済面、外交面、政治面など	記述の分析例① 幕府にとって、金銀の交換比率の違いから金が出たことは痛手であり、 幕府の視点   経済面 人々は、物価が上昇したことによって生活が苦しくなった。 庶民の視点   経済面 このことから開国は日本にとってメリットが少ないと思ったから。 ④自分の言葉で言い換える
○多角的な捉え方 幕府の視点、庶民の視点、雄藩の視点	記述の分析例② 鎖国を続けていたら、薩摩藩がイギリスの援助を受けることはなかったか 反対の立場からの視点   雄藩の視点   外交面 もしれないし、結局日本は外国に攻められ、 <u>平和な時代が続かない</u> と思っ たから開国すべきと思った。 ⑦自分の言葉で具体的に示す
○反対の立場からの視点 「もし鎖国を続けていたら」という例を示す	
○自分の考えの表し方 ⑦自分の言葉で具体的に示す ④自分の言葉で言い換える ⑧自分の言葉で新たな提案をする	

図9 分析の視点及び記述の分析例

表3 「最初の考え」と「最後の考え」の比較（一部の生徒）

生徒	判断		判断理由
H	最初の考え	開国する	鎖国をしたままだったら、アメリカと戦争していたかもしれないし、今の世の中が発展していなかったかもしれないと思ったから。
	最後の考え	開国する	1つ目の理由は、開国することで早い段階で世界の経済の基準が分かったことが大きいと思いました。例えば、日本の金が出しましたが、この時点で気付いていなかったら、もっと経済が大変なことになっていたのではないかと考えました。2つ目は、雄藩が江戸幕府に対抗できる力をつけることができたことです。また、鎖国を続けると判断しても、条約を断った時点で、戦争をしていたかもしれないし、していなくても、行き詰まっていた江戸幕府はイギリス他四国の圧力に負けると思ったので、ここで開国をしたほうが良いと思いました。
生徒	判断		判断理由
I	最初の考え	開国する	開国しなかったら、アメリカとかに攻められてしまう危険性もあったし、開国したら他の国との貿易もできるのでいいと思う。
	最後の考え	鎖国を続ける	開国したことで、貿易に関する不平等な条約を結ばされたから。貿易をして物価が上昇し、庶民の生活が苦しくなったから。また、薩摩藩や長州藩が外国と戦うことになり、多くの被害が出て、平和ではなくなったから。
生徒	判断		判断理由
J	最初の考え	開国する	(空欄)
	最後の考え	鎖国を続ける	開国してもあまりいいことがなく、日本にとってのデメリットが多くて、鎖国を続けていれば日本の物価が高くなることもなかったし、国産が売れなくなることもなくて、外国との争いも起きなくなるので国民の生活が安定したと思います。

容を踏まえた根拠を基に、自分の言葉で具体例を挙げたり、言い換えたりして考えを表現することができた。このことから、生徒Hは自分の考えを深めることができたと考ええる。

生徒Iは「最初の考え」を「開国する」としていた。理由としては、鎖国を続けていたら攻められる危険性があること（外交面、幕府の視点）、貿易のメリットがあること（経済面）を挙げていた。生徒H同様、アメリカに攻められるとした根拠や、貿易のメリットについての根拠は不明確であった。それが「最後の考え」では、「鎖国を続ける」という判断になり、学習を踏まえて、不平等条約（外交面、幕府の視点）や具体的な貿易開始のデメリット（経済面、庶民の視点）、外国との争い（外交面、雄藩の視点）等を根拠として、最後は自分の言葉で「平和ではなくなったから」と言い換えてその理由をまとめている。このように、自分の考えを再検討する活動を繰り返したことで、判断を変更した理由を、多面的・多角的な視点を踏まえて、自分の言葉で言い換えてまとめることができた。このことから、生徒Iは自分の考えを深めることができたと考ええる。

生徒Jは「最初の考え」の段階では、判断の理由まで表現することができなかった。しかし、「最後の考え」では、反対の立場からの視点として、庶民の立場から、鎖国を続けていれば、物価高騰はないこと（経済面）、国産が売れず生活が困窮することもないこと（経済面）、外国とのトラブルもないこと（外交面）を理由として挙げ、自分の言葉で、鎖国を続けていれば国民の生活が安定していたのではないかと考えをまとめている。このように、自分の考えを再検討する活動を繰り返したことで、判断の理由を表現できなかった生徒が、多面的・多角的な視点を踏まえて、自分の言葉で「国民の生活が安定した」とまとめることができた。このことから、生徒Jは自分の考えを深めることができたと考ええる。

H～Jの生徒の分析と同様の方法で、対象生徒89名の「最初の考え」と「最後の考え」の記述内容を分析した（表4）。多くの生徒が「最初の考え」に比べると「最後の考え」は、より多面的・多角的な視点から判断の理由をまとめることができていた。具体的には、「最初の考え」で多面的・多角的な視点あるいは反対の立場の視点から判断の理由が書けていた割合が38%であったのに対し、「最後の考え」では、88%に増加した。そして、個人における考えの深まりについて、「最初の考え」と比較して、「最後の考え」では、48%の割合でより多面的な視点を踏まえた記述内容になっており、34%の割合でより多角的な視点を踏まえた記述内容になっていた（表5）。

表4 記述内容の分析（一部）

生徒	最初の考え					最後の考え				
	判断	多面的な視点	多角的な視点	反対の立場からの視点	考えの記述	判断	多面的な視点	多角的な視点	反対の立場からの視点	考えの記述
K	鎖国を続ける	文化		○	①	開国する	経済、外交	庶民、雄藩		⑦
L	開国する	産業 政治 総合	幕府	○	⑦①	開国する	産業、政治 経済、外交 総合	幕府、庶民	○	⑦① ⑦
M	鎖国を続ける	外交		○		鎖国を続ける	政治、経済	幕府、庶民	○	⑦⑦
N	開国する	(空欄)				開国する	産業	雄藩	○	⑦
		∴					∴			
Z	開国する	産業				鎖国を続ける	政治、産業	幕府	○	⑦

表5 「最初の考え」と「最後の考え」の記述内容における分析結果の比較

	最初の考え	最後の考え
多面的な視点から理由がまとめられた割合	25%	55%
多角的な視点から理由がまとめられた割合	0%	34%
反対の立場の視点に立って、理由がまとめられた割合	26%	55%
多面的・多角的・反対の立場のいずれかの視点から理由がまとめられた割合	38%	88%
最初の考えと比較して、より多面的な視点から理由がまとめられた割合		48%
最初の考えと比較して、より多角的な視点から理由がまとめられた割合		34%

このように全生徒の記述内容を分析した結果、単元の「つかむ」過程で、意思決定を伴う「単元の課題」を設定し、自分の考えを再検討する活動を繰り返すことで、多く生徒は自分の考えを深めることができたと言える。

## Ⅶ 研究のまとめ

### 1 成果

(1) 単元の「つかむ」過程において、小学校の既習事項を基にしながら、自分ごととして考えることができる意思決定を伴う「単元の課題」を設定することで、多くの生徒が自分の考えをもつことができた。さらに、考えを深めていくための基盤となる最初の考えを形成することができたことから、主体的に学習に取り組む態度の育成にもつながった。

(2) 単元の「追究する」過程において、常に単元の課題に立ち返りながら、学習内容を踏まえて自分の考えを再検討する活動を繰り返すことで、学習が進むごとに多面的・多角的な視点が考えに加わり、考えを深めていくことができた。さらに、単元の課題と単位時間のつながりや各単位時間のつながりを常に意識することができるようになり、粘り強く学習に取り組む姿が見られるようになった。また、単元の「まとめる」過程において、再検討を繰り返し行うことにより深めてきた互いの考えを交流することで、他者の考えと自分の考えを比較・関連付けながら更に考えを深めることができた。

以上のように、意思決定を伴う「単元の課題」を設定し、学習内容や他者の考えを踏まえて自分の考えを再検討する活動を繰り返し取り入れることは、粘り強く学習に取り組み、自分の考えを深めることができる生徒を育成する上で有効であったと言える。

### 2 課題

単元の「まとめる」過程においての他者の考えを踏まえて自分の考えを再検討する活動では、交流する時間が十分に確保できず、多くの生徒と交流することができなかった。考えを更に深めさせるためには、ICTの活用方法を工夫したり、交流する方法を工夫したりして、より多くの生徒の考えに触れさせる必要がある。

## Ⅷ 提言

本研究では、意思決定を伴う「単元の課題」を設定すること、単元の「追究する」過程で、単位時間の学習内容を踏まえて自分の考えを再検討すること、単元の「まとめる」過程で、他者の考えを踏まえて自分の考えを再検討することを手立てとして、生徒の考えを深めることができた。さらに、知識の定着や主体的に学習に取り組む態度の育成という成果も得ることができた。本研究の課題点を踏まえて、同様の手立てで実践を行っていただき、「考える事が楽しい」と生徒が思えるような授業展開になれば幸いである。

### 〈参考文献〉

- ・文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）解説社会編』
- ・群馬県教育委員会 『はばたく群馬の指導プランⅡ』（2019）
- ・『社会科教育 10月号』明治図書（2021）
- ・北 俊夫 『「主体的・対話的で深い学び」を実現する社会科授業づくり』明治図書（2018）
- ・北 俊夫 『社会科・学習問題づくりのアイデア』明治図書（2004）

### 〈担当指導主事〉

西原 和久 山中 英史